



豐玉彘句集



土方歳三著
j a a f a r 編

第一部

- 差し向かう心は清き水鏡
- 裏表なきは君子の扇かな
- 水音に添えてききけり川千鳥
- 手のひらを硯にやせん春の山
- 白牡丹月夜月夜に染めてほし
- 願うことあるかも知らず火取虫
- 露のふる先にのほるや稲の花
- おもしろき夜着の列や今朝の雪
- 菜の花のすたれに登る朝日かな
- しれば迷いしなければ迷わぬ恋の道
- しれば迷いしらねば迷ふ法の道
- 人の世のものとは見へぬ桜の花
- 我年も花に咲れて尚古し
- 年々に折られて梅のすかた哉
- 朧ともいはて春立つ年の内
- 春の草五色までは覚えけり
- 朝茶吞てそちこちすれば霞けり
- 春の夜はむつかしからぬ嘶かな
- 三日月の水の底照る春の雨
- 水の北山の南や春の月

第二部

- 横に行き足跡はなし朝の雪
- 山門を見こして見ゆる春の月
- 大切な雪は解けけり松の庭
- 二三輪はつ花たけはとりはやす
- 玉川に鮎つり来るやひかんかな
- 春雨や客を返して客に行
- 来た人にもらひあくひや春の雨
- 咲ふりに寒けは見へず梅の花
- 朝雪の盛りを知らず伝馬町
- 岡に居て呑むのも今日の花見哉
- 梅の花一輪咲てもうめはうめ
- (井伊公) ふりなからきゆる雪あり上巳こそ
- 年礼に出て行空やとんひたこ
- 春ははるきのふの雪も今日は解
- 公用に出て行みちや春の月
- あはら屋に寝て居てさむし春の月
- 暖かなかき根のそはやいかとほり
- 今日もきょうたこのうなりや夕けせん
- うくひすやはたきの音もつひやめる
- 武蔵野やつよふ出て来る花見酒
- 梅の花咲るしたけにさいてちる

終わりに

新撰組の「鬼の副長」と知られている土方歳三公の意外な一面がうかがえる美しい俳句を皆さんに紹介したいと思い、筆をとりました。

最後にホームページ「新撰組百科事典」（URL：<http://www.toshizo.com>）の運営者、土方ゆうと様から書籍化を承諾していただきました。

この場を借りてお礼を述べます。

本当にありがとうございました。

j a a f a r

豊玉発句集

<http://p.booklog.jp/book/67370>

著者 : jaafar

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/jaafar/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/67370>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/67370>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ